

## 専門医師の方々と知識や経験を共有しながら、アレルギー疾患と真摯に向き合っていく。

広島アレルギー呼吸器クリニックは、2003年に広島市・東区で開院された、アレルギー疾患専門のクリニックだ。中でも同医院の診療の多くを占める気管支喘息は、現代病の一種にも数えられ、注目を集めている分野のひとつ。その医療の最前線を探るべく、統括院長の保澤総一郎氏に話を聞いた。

### アレルギー疾患の診療範囲は多岐に渡る。気管支喘息をはじめとしてアレルギー性鼻炎、花粉症など、病名を聞けばいかに身近に必要とされている医療なのか分かる。睡眠時無呼吸症候群や禁煙コンサルティンクも、アレルギー疾患や呼吸器内科に付随する診療項目の一つだ。

保澤氏がこの分野に足を踏み入れたのは、広島大学病院で内科研修医に従事していた1983年のこと。当時、日本全国における気管支喘息の患者数は、全人口の約3%程度と推定されていたが、現在では喘息患者は日本国民の約10%にのぼると言われている。その主な原因と考えられるのが食生活の欧米化や肥満体質の増加、居住空間の密閉化によるアレルギーの拡大など、生活習慣の変化だ。

医療の進歩に伴って重篤な患者が減る一方、患者数自体は今後も増え続けていくことが予想

されるがだからこそ保澤氏は、世の中に広く必要とされる医療であり、やりがいのある医療であると考えている。

「私が医師になって間もない頃は、喘息治療や疾患に対する考え方や治療法が大きく変わってきた時期です。過去の医療方針に必要以上に捉われることなく、様々なことに挑戦できたことは、仕事のやりがいにも繋がりました。」

喘息の治療は1990年頃から大きく進歩し、気管支拡張薬を使う従来の方法からステロイドを吸入する方法へと、診療の主流が移り変わっていき、発作は減る一方で、喘息治療の新たな症例の積み重ねが必要となっていた。その最前線にいた医師のひとり保澤氏だ。

「患者数は年々増え続ける一方ででしたが、外来の喘息患者の治療継続率は高いとは思えなかった。そこに危機感を抱き、より専門性の高い医療機関が必要だと感じました。」

### そして2003年に広島アレルギー呼吸器クリニックを開院。現在も最新の研究や情報にアンテナを張りながら、日本全国で年間約100回程度、講演やセミナーを行うなど、診療活動のみならず、業界全体に向けた啓発活動にも力を入れている。

「喘息患者は、通院や治療を継続することが何よりも重要です。計画的に治療ができれば寛解に向かう確率は格段に上がる可能性が高いのですが、実際には途中で通院をストップされる患者さんも少なくない。当院を訪れる喘息患者の方々は、一般の内科の患者より平均年齢が若い傾向にありますが、社会的にアクティブな方が多いことも通院を止めてしまう原因の一つなのかもしれません。そこで私たちの病院では、働いている方々が継続的に通院しやすいシステム作りを注力してきました。予約制を敷くことで、待ち時間を短縮し、患者さんのお話をじっくり聞く時間を確保する。こうしたスケジューリング管理は、院内で徹底しています。」

このシステムを活用することにより治療経過のモニタリングと説明が患者さんに伝わり、治療継続のモチベーションにつながっている。さらに2014年には広島市・中区のオフィス街に分院を設立し、ビジネスパーソンの方にも通いやすい体制も整えた。

喘息というと、子どもの病気とイメージする人も少なくないかもしれないが、実際には大人になってから発症するケースも多い。ほこりやペット、たばこの煙や医薬品など、私たちの日

常には、再発の要因となる可能性のあるアレルギー物質が多く存在する。患者の立場に寄り添って、性のあるアレルギー物質を多く存在する。同時に、最新の医療を提供できるように、同医院は設備投資も積極的に行ってきた。呼吸抵抗測定器や、喘息性の炎症などを診る呼気一酸化窒素測定器などが取り揃えられている。現在では同医院の設備を聞きつけ、関東などから医師が見学に訪れることも多いという。

### 患者の立場に寄り添って、性のあるアレルギー物質を多く存在する。

同時に、最新の医療を提供できるように、同医院は設備投資も積極的に行ってきた。呼吸抵抗測定器や、喘息性の炎症などを診る呼気一酸化窒素測定器などが取り揃えられている。現在では同医院の設備を聞きつけ、関東などから医師が見学に訪れることも多いという。

喘息を中心としたアレルギー疾患専門クリニックのモデルケースとして、診療のスタンダードや設備を参考にしている医療機関も出てきているが、保澤氏は、こうした業界の流れを心から喜んでいる。

# CHALLENGER

HOZAWA SOUICHIROU  
広島アレルギー呼吸器クリニック 統括院長

## 保澤総一郎

広島県出身。1981年、広島大学医学部卒業。広島大学病院にて内科研修後、83年に広島大学第二内科入局。その後、米国に渡り免疫学の研修を行うなどの研鑽を積み、2003年より広島アレルギー呼吸器クリニックを広島市内に開業。喘息予防・管理ガイドライン作成委員。

The Extra Edge

世の中のトレンドをリードする  
話題のモノ、ヒト、コトなどを紹介